

2017年度GTセミナー 第44回保育環境セミナー後編 2017.7.10^{MON} ~ 7.12^{WED}

第21号 2017年7月24日発行

ミマモルジュ挨拶

ホテルに宿泊客の様々な相談や
ご要望に応えるコンシェルジュがいる
ように、保育においても様々な
ご要望や悩みがあると思います。

「見守る」+「コンシェルジュ」=
ミマモルジュとして、保育に関する
ご要望にお応えしていけるよう
活動していきます。

株式会社カグヤ 奥山卓矢

セミナー2日目 実践発表

前号に引き続き、第44回保育環境セミナーについてです。
(本誌、第20号も併せてご参照ください。)

東京都 社会福祉法人多摩養育園 光明第三保育園

設立：昭和26年 定員：120名 見守る保育実践歴：3年

見守る保育に出会ったきっかけ：同法人が実践をはじめたため

保育を変えるにあたり着手したこと：行事の見直し（お遊戯会、鼓笛）

見守る保育導入前

- ・クラス別の横での活動
- ・クラスごと一斉での制作活動
- ・運動会、遊戯会の楽器担当や遊戯などは担任が決めて取り組む
- ・散歩など外に出る時は担任が決めた行先に行く

見守る保育導入後

- ・幼児3学年約40名ずつの2チームに分けての活動
- ・難易度を3つに分け、期間を決めて子どもたちの行いたいときに、自分の取り組みたい難易度での制作活動
- ・運動会では縦割りでのプログラムを実施
- ・散歩では距離別3コースに分けての選択制



会場の様子



せいがの森こども園 倉掛園長から
見守る保育の5つのポイントをご説明



見守る保育の5つのポイント
参考資料



第15回ドイツ環境視察ツアー報告

滋賀県 社会福祉法人三宝会 ののみち保育園

設立：昭和50年 定員：90名 見守る保育実践歴：5年

見守る保育に出会ったきっかけ：ミマモリングソフト

保育を変えるにあたり着手したこと：理念の見直し

見守る保育導入前

- ・担当制の乳児保育から、どう幼児保育を進めるべきか、保育の方法に行き詰っていた
- ・一旦保育業務に就くと保育以外の業務が全くできなかった
- ・保育士以外は保育室に入ってはいけないと思っていた（事務）

見守る保育導入後

- ・年齢に応じて言葉のかけ方やタイミングは様々だが、伝えたいことは同じなので迷わない
- ・業務分担する事により、一人にかかる負担が軽減された
⇒保育以外の時間が作れるようになった。
- ・事務職員であっても保育者であり、多様な大人の内の1人

ドイツ報告

第15回ドイツ環境視察ツアー

実施期間：2016年7月24日（日）～7月31日（日）

研修内容：ミュンヘン施設研修、日独保育士交流会、アクティビティ

視察した施設：Kinderkrippe（保育園）0～3歳児施設

Kindergarten（幼稚園）3～6歳児施設

Hau fur Kinder（子どもの家）複合施設

キーワード：Partizipatio『参画』

ドイツが1997年に子どもの権利条約に採択。

これを機に「参画」を考えるようになったそうです。

例) 子どもが給食を

何を 誰と どのくらい食べたいかを決める権利がある

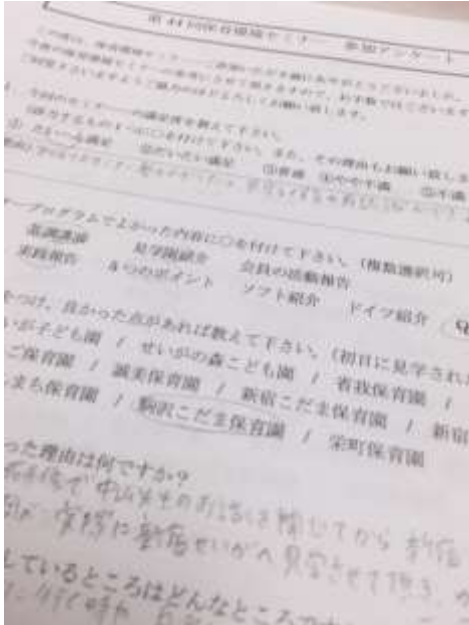
セミナー参加者の声

実践報告でそれぞれの園が行っている取り組みを見られてよかったです。自分がしている保育を見直していこうと思います。

単に「見守る保育」について知るだけでなく、各園での実践や取り組みの様子を見せて頂いたことで、より見守る保育について理解を深めることができました。また、すぐに園に持ち帰ってやってみたい。

園見学や普段の保育でのエピソードを織り交ぜたお話を聞いて、“私もやってみたい！”と保育への意欲につながりました。

子ども達との関わりあう中で環境作りは日々考え工夫していたのですが、他園に見学に行き今回改めて考えさせられました。ずっと悩んでいた環境づくりのヒントを学べたので良かったです。



セミナーアンケート

今後のGTセミナー開催予定

- | | |
|----------------------|---------------|
| GTサミット 2017 | 2017/8/21~22 |
| 会場：TKP ガーデンシティ竹橋 | 定員：100名 |
| 第45回保育環境セミナー | 2017/9/4~6 |
| 会場：TKP ガーデンシティ竹橋 | 定員：100名 |
| 第46回保育環境セミナー | 2017/10/16~18 |
| 会場：TKP ガーデンシティ竹橋 | 定員：100名 |
| 第13回見守るリーダー研修 | 2017/11/27~29 |
| 会場：TKP ガーデンシティ竹橋 | 定員：100名 |
| 職域別見守る保育セミナー | 2018/1/15~16 |
| 会場：TKP ガーデンシティ竹橋 | 定員：60名 |



GTサミット 2017
開催日：8月21日~22日



セミナーテキスト

セミナーを終えて思うこと

末ついに 海となるべき 山水も

しばし木の葉の 下くぐるなり (伴蒿蹊 江戸時代 歌人)

水が初めて深山の岩の間から湧き出て、まだ力が弱い浅い流れの時は、一枚の木の葉にさえぎられることもあるが、苦勞して木の葉の下をくぐり抜け、いくつかの流れと合流して力を増せば岩石さえも壊して海に降って、ついに大海の水となって大船を浮かべることもできる。

最近、上記の詩に出会いました。正確には何度も読んでいた本の一節にあったのですが、私にとって今がその時だったようで心に残りました。詩をご紹介させて頂いたのは、子どもたちの成長やギビングツリーの活動に重なるものを感じたからです。

保育環境セミナーは44回と回数を重ね、今回、藤森先生は基調講演で「見守る保育の基本をお伝えします。」と改めて『見守る保育』についてお話してくださいました。

はじめてセミナーにご参加頂いた先生にとっても、実践をしていく中で悩みを抱いていた先生にとっても、基本から考えていくことでそれぞれに今、必要なことが見えてくるのではと感じました。

悩みは決して尽きることはないのかもしれませんが、それでも先生方が笑顔で会場を後にする。それは私達事務局にとって何よりの喜びです。先生方の笑顔が、子どもたちの笑顔に繋がっていると思うと、笑顔は「最高の見守り」なのかもしれない、そんなことを思いました。

(報告者：株式会社カグヤ 奥山卓矢)

●過去のバックナンバー

第18号

築120年古民家『聴福庵』2017②

第19号

織姫さん、機織りに何想う

第20号

第44回保育環境セミナー前編

<http://www.caguya.co.jp/topics/news/p9889/>



〒161-0023

東京都新宿区西新宿3-2-11 新宿三井ビルディング2号館10階

Tel:03-5909-7155

毎週月曜日に配信しています。

ミマモルジュメールマガジン発行：株式会社カグヤ 奥山卓矢



メールマガジンのご登録は、QRコードからお願いします。

今回、セミナーにご参加頂いた皆様から寄せられた質問について、【保育環境】【年齢別保育と異年齢児保育】【保育士の対応】【食育】【行事】【保護者対応】の 6 項目に分類し、藤森代表に考え方を示して頂きました。

【保育環境】

保育室内で、遊・食・寝の独立が難しい場合はどうしたらいいでしょうか。

遊食寝を分ける最初の発想は、日本は分けていなかった。外国の違いで部屋によって分かれているが、日本は分かれていない。一つの日本の文化でもあるのだがいろいろ工夫をする。例えば、机やイスはたためるものにする。外国でもびっくりされた。ドイツへ行った時、一緒にアネビーさんの紹介でハーバー社の本社へ行き、ハーバーさんと会って話をした時に世界中から注文があるけど日本からしか注文があると言われた。机の脚をたためるようにしてほしいという注文は、日本人からしか来ない。外国はたたまない、たたむと強度が弱くなる。日本は場所を兼用するので食事の後にそこで寝るから、運ばないといけないので円形で転がしていけるようにと日本は昔から併用していた。保育をする中で家族ならいいが、活動を中止させたり、急かしたりすることになる。食事をしている子を急かして、遊んでいる子がいても食事をするから早く片づけなさいといけない。分けたほうが子どもの活動を保障できるだろうと提案した。3つを分けれるほど、日本の保育室は広くないので併用するしかない。併用するとき意識するのが活動と活動が隣り合わせなものではできるだけ併用する。私の園でも例えば併用することがあるが 2 歳が遊んでいるところで昼寝をする。違う食事の場所へ行きます。食事の時間だよと声を掛ければ、自分のペースで食事に行ける。食事に行っている間に遊んでいる場所を片付けて昼寝の準備をする。食事は急かすことなくその子のペースで食べることができる。併用する場合は、活動と活動が隣り合わせなもので考えます。そういう工夫が考えられる。

遊食寝を分ける時、ドイツはランチルームはない。ランチルームを持った園をドイツで見たことない。食事は保育室の中で行う。朝食をほとんどの子が食べる。それはバラバラに登園して食べるのでランチルームで食べると保育士がつかないといけないので保育室で食べる。ドイツで絶対分けるのは寝室。布団を敷くと綿ぼこりがたつ。この綿ぼこりが食事の上にかかると清潔上よくないので別のところ。私のところでは綿ぼこりがたたないようにコットを並べると綿ぼこりがたたない。どこどこを兼用するのか、時間で、どこで子どもが動いているかから考えるといい。体育館、ホール専用などところはない。廊下もない。外国でもドイツでも廊下は細長い通路として使い、廊下があっけいどまるなら部屋の間も開けっ放しにすると広がる。廊下で食事をするところがある。園の中に無駄なスペースがないか検討して、場所を確保することを考えるといい。

ゾーンとコーナーはどう違うのでしょうか。

遊ぶときに何して遊びましょうではなく、子どもが自発的には働きかけないといけない。働きかける環境がないといけない。何をしようかと出すのではなく、やりたいと思える時に用意できる。それを最初コーナーと言うのは、ドイツは家具を直角に出す。その横も直角に出す。ここを絵本にしましょう、制作にしましょうとすると角、コーナーと名付けた。

昔、日本でコーナー保育を展開したことがあった。隅を使うことがあった。アメリカではそれをセンターという言い方をした。子どもが興味を持っている中心の場所とかクリエイティブセンターと言っていた。国によって違う中で私は色々考えた結果、私はその場所で子どもがワクワクして我を忘れて熱中する場所。制作で熱中する場所なのでゾーン体験という。スポーツでゾーン体験という。ゾーン体験してほしいのが一つ。建築ではゾーン設計と言って生活ゾーン、パブリックゾーンとかゾーンと名付けている。誰も使っていないゾーンと付けた。コーナーというくとくっきり区切られているのがコーナー。正確に分けるとお仕度コーナー。お仕度ゾーンとは言わない。制作絵本はゾーンと名付けている。仏教の中に

ゾーン体験に近い意味で三昧という言葉がある。よく読書三昧という。1日中読書をしたりする。そういう意味で三昧という言い方をしていたので、日本は三昧という言葉を使って制作三昧とかしたら面白いのではとした。光明保育園さんはもともとお寺さんなのですでに三昧と付けているらしい。区切られている場所というよりも、いきいきと活動する場所として名付けている。

小規模保育園（0歳児～2歳児12名）で見守る保育をすとしたら、どのようなことをポイントに行ったらよいかをお聞きしたいです。スペースがない中でのゾーン遊びの工夫を聞きたいです。

小規模保育園では狭いながらもいきいきできる場所を工夫して作っていくといい。とくに私は小規模施設で気になるのが常に全部の活動が大人から見られてしまうことが気になる。そういうところでは、段ボールを使って子どもが隠れられる場所、こもれる場所を作ったらいと思う。建築ではアルコーブ、デンという。平らな中にへこみがあったり、くつろいだりできる場所をできるだけ作ってあげて、大人の視線から隠れられる場所が必要な気がした。5Mの一つにメリハリがある。空間にメリハリを作る。天井に布を張って高低差を作ったり、クッションでふわふわしたり、こもれる狭い場所を作るとか、空間のメリハリを作ると落ち着くと思う。

【年齢別保育と異年齢児保育】

乳児クラス（0, 1）担当です。1歳児がパズルで集中して遊んでいるところに0歳児がやって来て、1歳児の遊んでいるパズルのピースを取り上げ口に…。1歳児は「やめてよ」と泣き出しますが、0歳児には伝わらず…。こんな時、1歳児の遊びも保障してあげたいし、0歳児の興味も大切にしたいです。どうしたらいいですか。最近の悩みです。

まず、01歳の時のものの取り合いはよく先生が取っちゃダメ、貸してって言いなさいというが、小さい子は人を取ろうとする気はないと思う。ものしか見えない。自分がほしいだけで人のものを取る。大人が言う、人のものを取る意識はないと思う。ただほしいと思うだけ。怒っても仕方ない。二つ同じようなおもちゃを渡し貸すなどする。仲良く順番に使うは2歳くらいだと思う。貸してといっても使っている子からしたら、遊んでいるのに貸さないといけないのは、そう言われたからって気の毒。数を用意することと近づけないことしかない。一つは1歳児は次第に微細運動と言って手先の運動を始める。細かいということは飲んでしまうし、細かい運動をしているのに段ボールで境を作るなどして区切って、安心してできる環境を保障をしてあげないと注意しても無理。微細運動を始めたときには落ち着いてできる場所を作る。飲んでしまうこともあるがメーカー側は苦い味をつけるなど工夫をしている。毒があると思って飲めない。そうでないと飲むといけないので、この大きさが通ると危ないという目安がある。小さくてものに張り付いてはいけないのでホースはふさがっても通る。のどにへばりついて息ができないと危険。そこに行かないように遠ざける、その代わりに1歳になると微細運動が始まるので保障したいとしたらしっかり分ける。小さい子、01は特に注意する。自覚するなどは無理なのでいかないうような工夫をした方がいいと思う。

幼児クラス（4歳児）の担任をしています。見守り保育を実践しており、異年齢児保育、選択制保育等を行っているところです。幼児担任4名でのチームで子どもたちを見ていますが、初めて持つ子どもたちに幼児担任同士、どのように子どもたちの力を把握していったらいいのか不安なところがあります。集団が大きいので個々の力を把握するのが難しいです。そのため、クラス活動を積極的に行っているところです。果たして、これでいいのかと疑問に思うことがあります。しかし、保護者としてはクラス担任に自分たちの子どもを把握してもらいたいという強い思いがあるようです。保護者からの圧力も感じています。

一つは私が小学校で教えていた時、最後の1年生を教えたときクラスの人数が36名だった。それまで40名だった。私が担任していたころは36人が最後。妻によく言われるが物忘れが激しいが今でも36名に子どもの名前は言える。36名だったので通知表の36人の所見欄は楽だった。普段45人くらいだと、35名を過ぎた辺りから、ここからもうひと頑張りとなっていた。大変だったのはクラス運営。子ども同士の役割をさせていた。こういうときはこの子が意見してと、子どもを想定していたのが今の原点になります。36人だと役不足で最後はどうもやりにくかった。子どもが多いほうがやりやすい。クラスの人数を減らすようにとあるが、それは管理しようとしたりと楽。子ども同士で何かしようと思ったらある程度人数がいたほうがいい。子ども同士が助け合ったり色々なことをやりあうと、ある程度人数がいたほうがいい。それから、複数の目で全体を観ないといけないがどれくらいの規模かは研究の中では3の倍数と言われている。最大で一人の人が150人くらいは把握できる。それでも私は複数の目で見たほうがいいと思っている。先生同士話し合っ共通意識をもって、私の園ではミマモリングソフトを使っている。指針にある領域ごとにチェックするものだが、子どもをチェックするというよりは子どものことを理解し合っている。付けるというよりは話すきっかけとして使っていることが多い。Aくんがこれ出来ているかね？とか領域を網羅してあるので、お互いの子どもたちの理解をしあう。それから保護者に対しては担任を決めたほうがいいと思う。チームで保育をするが親にはきちんと3歳の担任はこの先生、4歳はこの先生と親には示している。それは親が相談するときに誰でもいいだと困る。情報は担任に集約するようにする。日誌を書くのは担当した先生。けがをした時はけがを見た人が書く。保護者に伝えるのは見た先生が伝えるのもあるのだが担任を通して、保護者へ伝えるようにしている。親との関係の中心は担任となるようにしている。担任と実際に見た先生、担任は見るようにしているので決めている。もう一つは事前の話だがクラスの担任を決める時にチーム保育でクラスを決める。2歳児クラスが30人なので5人担任がいる。必ず一人は持ちあがる。もう一人は同じ年齢をもう1年やる。残りの先生は他のクラスへ行く。3年は持ちあがらないが子どものこと親のことを分かっている人がある。ルールとしては特別にあると変則的になるが安心するように担任を決めている。保育は必ずしも担任がやるとは限らない。子どものことはすべての先生が全ての子を把握できるようにしている。保育自体は色々な先生が入るが、保護者との関係は担任が入る。

【保育士の対応】

日々、見守り保育を基本として、保育環境を設定したり、子どもと関わることを意識して保育を行っています。しかし、その中でどこまで見守りなのかと職員間で話し合い悩むことも多く、私自身が見守りと思っても、第三者からの目で見ると放任と感じてしまうこともあるようです。感覚や価値観の違いは、人それぞれだとは思いますが、藤森先生は見守りと放任の大きな違いはどのような点だとお考えですか？参考までに、是非教えて頂けたらと思います。よろしくお願い致します。

色々な方法があるので、それなので藤森メソッドというようにした。例えばNHKで取り上げられたある保育が見守り保育と言っていた。子どもがけんかをした。先生がずっと見ていて1時間経ってから何となく解決して終わった。それを見た記者がどうして「見守っていたのですか？」と聞いたら自分で解決するからと言っていたが、そこが私の考えとの違

い。うちの職員に「どうして見守っていたのですか」と聞いたら、「あの子どもたちだったら解決すると思った」と答えると思う。見守り方は子どもによって解決できる力は違う。ある大学の先生が学生とキャンプへ行ったらなかなか火がつけられずにいたので火をつけてあげた。買い物があるので火を見ておいてといった。そうしたら戻ってきたら火が消えていた。「ちゃんと見ておいてと言ったのに」と言ったら学生は見ていたと言った。それはある意味で放任。見守るのは消えそうになったら火をくべないといけない。見るだけと守るだけでは違って、その先生も火を見守っていたと言ったら、学生も火をくべていた。ただ見ているだけとは違う。守り方をどこから手を出していいかが基本的には、子どもの方から言って来たらやってあげればいい。言わなければやらない。そうすると簡単。いちいち考えないで子どもが言って来たらやってあげる。言うてくることが言葉であるとは限らない。行動や表現に気付かないといけない。よく見ていないと守ることができない。子どもが何か言うてくる。言うてきたことに気付くのは人によって差が違う。言う前だと介入の仕方によって変わってくる。自分は見守っていると思っても人に放任と思われてしまうのは、うちの園の話だがリーダーが会を進め、サブリーダーは後ろを見ている子などを前を向かせる。本来、おしゃべりをしている子たちを前に向かせるのだが、何を話しているのだろうとそばに行った。そうしたら女の子たちは何かにおわない？トマトのにおいしない？と話をしていた。リーダーの話よりもこの話の方がよっぽどいいと、サブリーダーはそのままにしていた。リーダーが何で放っておいているのと思うかもしれない。しゃべっているから注意してよと言うかもしれない。でもその先生には理由があるかもしれないので、基本的に注意しない。見ているだけでない何か想いがあるだろうと思う。というように見ているだけかどうかは信用し合わないで成り立たない。例えば、お散歩に行くとき途中、途中の出会いが大事。花が咲いた。鳥が鳴いた。帰りも興味関心を持って帰ってくるはず。多くの園は帰りは一目散に帰ってくる。給食が待っているから、早くしないと調理が困ると人のせいにする。子どもからすると帰りだって大事。それを見込んで出てもダンゴムシを見つけたら、ちょっと見ていこうよとしないといけない。それができるのは調理が遅いからイライラするのではなく、面白いものを見つけたのかしらと待たないといけない。イライラしてしまうのでは、いい職員集団とは言えない。あまり遅くなったらパジャマに着替えなくていいよという柔軟性、寛容性がある。その時々子どもの何を優先するかを考える。時間通りが優先なのか、それは全職員が合意しないといけない。時間が迫っているから自分が忙しくなるからではなく、全ての人で合意して信じあうことだと思う。人によって手を出す感覚がずれるかもしれない、止めるべきがもう少し見ているべきか。けがをしちゃったらもう少し早く止めたほうがよかったねと、再発を防ぐことが大事。あの子どもだったら大丈夫だと思ったけど、こういう兆候が出たら止めたほうがいいと、二度と起きないように話し合うことが大事。そのあと大事な体験をするかもしれない。1回間違っただかどうかではなく何をすることが大切なのか。問題行動を起こしたときに「全員がそうそう、こういうときはこうしたから違うかもしれない」と違う意見を言い合えること、「手を出した方がいいんじゃないの？」と言い合える職員関係でいてほしい。子どもを優先するために子どもによって変わってくる。担任がよく知っている。給食も少しでもいいから食べなさいと言っていたら、注意するのではなくその先生はその子に言った方がいいのだろうなと信じている。先生たちは一生懸命やっているからそれを信じてあげること、違って人を認め合うことも大事。

子どもが泣いた時助けを求めてきたときに応えると、大人に頼らないと何もできなくなったり、ちょっとしたことで泣いて助けを求めるようになってしまいました。「自分で選択する」「自分で考える」ということができるようにするためには、どのような対応の仕方がいいのでしょうか。特に乳児に対しては、泣いているとすぐに大人がかけつけるような状況ですが、これでいいのか…わからなくなってしまいました。

ある動画を見てもらうと面白いが1歳児の女の子が泣いていた。泣いていると子どもたちがすぐ行って慰めてあげる。動画で面白いのがどこかが痛いではなく、甘え泣きして泣いているとわかったら全員が散っていった。大人が悩んでしまうのはおかしい。乳児の赤ちゃんの抱っこを求めたときにするかしないか、欧米では抱かない。夜でも一人で寝かせる、それが自立につながると思っている。甘えてしまうからという理由。ジャレドダイヤモンドの中ですぐに抱っこする民族と抱っこしない民族がいるそう。その民族を調べた結果、すぐ抱っこする民族のほうが総抱き時間は短い。抱っこしない方が総抱っこ時間が長い。求めたらしてくれるとわかると泣かなくなると研究で分かっている。先ほどの甘え泣きのようなものは依存してしまうようになってしまう。3,4歳になっても必要がなくても泣いてくる。大人が子どもに依存すると子どもが依存してくる。先生が赤ちゃんと遊んでいるといい先生なんだということは依存になる。お互いが依存しあってしまうとすぐに泣いて求めてくる。小さいころは依存関係ではなく、求めてきたら抱いてあげると3,4,5になっても、いちいち言ってこなくなる。小さいうちに依存したりする時は、他の子に仲裁を頼むとか、なるべく子ども同士にするといい。もう一つ自立をすることは一つの目的。どういった子に育ててほしいかヨーロッパでは9割以上自立と答える。日本では優しい子と答えることが多い。ヨーロッパでは自立は大事なことだが、私の好きな自立の考え方は、指針の中の人間関係の中に、「何のための自立するか」が書かれている。それは、生活を共にする中で支え合って、生きていくために自立心を育てていく必要がある。人が支え合っていくために自立心が必要と書かれている。自立心は無人島で一人で生きていくために必要なのではなくて、人が支え合っていくために自立心が必要と書かれている。一人でやりなさいと言うことが自立ではない。子ども同士が支え合える環境を用意することが大事。赤ちゃんが自分の活動に大人を巻き込みたいと思って関わって来た時は積極的に関わる。その代わりに一人遊びをしたり、他の子と遊ぶようになったときはあえて介入しない。子どもが必要な時だけ介入する。子ども同士で支え合っていくことを教えていくといい。

以上児クラス（3・4・5歳児やく60名）の朝の会や帰りの会に集中できない子が数名います。会の時間や環境（視覚情報等）の工夫をしていますが、もっと子どもが主体となる集まりの時間にしたいと思っています。集まりの時間、保育者が大切にしないといけない考えや、子どもが主体となるような関わり方や工夫のアイデアがあれば教えて頂きたいです。

私は保育計画の中でDo See Planという。その時のプランが朝のお集りだと言われている。その日の活動を提案して見通しを立てプランを立てさせる。1日の活動をしてお帰りはその日を振り返り楽しむと言っている。朝の会は一斉に何かみんなでやる時は朝の会にやる。みんなで歌を歌う、話を聞くことは、こういうときはリーダーを交代して複数で見る。私の園では必ず男性の職員がいるがやたらと面白く、いろいろする。例えば、ある先生がお集りの時に「今日のラッキーガールは誰だ？」とどこかにシールを張っていた。そうしたらそれを見つけようと競って座る。一度、誰もいなかったことがあった。「そこにあるから行けばいいの」と遅刻してきた子に座らせていた。朝の会である男性職員にプレゼントしたネクタイに鍵盤が書いてあって弾くと音が出ると演奏をはじめたり、ふざけているように思えるが競って朝の会に来ることがある。もう一つお集りに来たくない子のために出たくない席を用意する。本人からすると出ないでそこに座っている。サブの先生がどうして出たくないのかを聞いてあげる。それを聞いてあげないと解決しない。サブや3人目の先生が話を聞いてあげる。出ない子には出ない理由がある。そうでないときは集中する理由を聞いている。つまらない話をするなら出なくてもいいかなと思うこともある。あとは何が足りないのか、走り回ってしまう場合はその子は走り足りない。その時はお集りでない時と場所で走らせる。実践発表の中にもあったが、子どもたちの行動をいけない行動ではなく、何か理由があるからそれを聞いて適切な場所で満たされる工夫をすること。毎週水曜日は体を動かす日になっている。ある年は乱暴な学年があり、体力を持て余しているからそんな日を作ろうとした。そうしたら落ち着くようになった。困った

行動があったときは叱る・やめさせるだけでなく、何をするのか、どこで解消するのかを考えること。保育指針の養護中の情緒の安定の中に子どもの欲求を適切に満たすと書いてある。言うことを聞くのも放任。子どもの欲求を適切に満たすには時間と場所を用意して満たすことが大事。質問には数名いるということだが、私の孫はやたらと走り回っていて注意しようとして、こういう時間でいいと思う？と先生が聞いたらダメと答えていた。つるんでいた子に言って友達を止めさせた。先生が言うと余計にふざけてしまうことがあるので工夫する必要がある。引っ張る子が気になる子だとしたら、「あの子は今こうだからああしているけど、あなたはそこまでしなくてもいいんじゃない」と言う。それをすることが落ち着くとしたらその子の活動を保障するといいい。子どもは悪気でしょうというわけではないのでその理由を聞いて適切に満たすといいい。

【食育】

本人が食べる量を選ぶことは、指針の原則に反していないか？（参観での保護者から質問で「セミバイキング」で、本人の申し出で給食の提供料を減らすのはどのような意図があつてのことか？指針では、「日々の栄養の1/3を摂取」とあることに逆行していないか）という質問がありました。

今は量で決められていない。昔は摂取量が大事だと言われていたが、現在は量は言わなくなったと思う。もう一つ、私たちはなぜ摂取させる必要があるかという、子どもに栄養を取らせたいから。病気にさせないで健康でいさせたいから。アメリカのうつを研究をしている中の一つだが、老人施設で1階には朝食はスクランブルエッグと卵焼きにします。食べたいほうを毎日言ってください。映画会を開催するので観たい人は前の日までに言ってください。植木鉢を好きなものを選んで下さい。2階ではスクランブルエッグと卵焼きが毎日交互になりました。映画は廊下側の人からとしたら、2階の人はほとんど亡くなったと言われている。本人が選択しているか、していないか。末期以外の病気で打ち勝つには自分の意思が通るか通らないかが大事と言われている。マウスを3つに分けお腹に5割で死ぬ確率のがんを植え付け電気ショック与えた。2つ目のゲージは何かをすると止められるようにした。3つ目のゲージは幸せに暮らせるようにしたら5割が死んだ。1つ目のゲージは7割死んだ。2つ目のゲージでは2割しか死ななかった。自分で何とかできることで自分で直した。今はいっぱい食べるよりも自分の意思できちんと食べる方が健康になる。無理やり食べさせても健康にはならない。自分の意思で食べることが大事と言われている。ドイツでは飲み物からすべて選択させている。飲み物も水とお茶とどれがいい？と聞いている。これは健康にしたいからというのがある。好き嫌いに関しての研究が赤ちゃん学会で最近されている。赤ちゃんは五感を胎内で養う。味覚も胎内で身に着ける。自分を守るための味覚を身に着けてくる。それが好き嫌いと言われている。体力を維持するための量を胎内で身に着けてくると言われている。赤ちゃんが母乳を飲み始めると自分の意思で口を離す。それをどのくらい飲むかを調べたら個人差があった。ちょっと飲む子もいればいっぱい飲む子もいる。差はあるにもかかわらず増える量は一定だった。赤ちゃんはどれくらい飲めばいいかを学んでいると言われている。哺乳瓶であげると量が見えてしまうから、大人はもっと飲め飲めとしてしまう。いらぬと言っているのに飲め飲めとする。せっかく胎内で決められる能力を持っているのに、与えられて飲む能力に変えてしまうと言われている。これが思春期の摂食障害、拒食症になると言われていて、本当はもともと自分で食べる量が分かっているとされている。私たちは体重を測っているので増えている量が大事。いっぱい食べていても食べさせられていたら体重は増えない。子どもは自分で食べる量を知ること、ただしトラウマがあつて食べないことがある。味覚障害、他の障害も非常に関連しているが、例えばイチゴを食べる時に粒粒がある。ある子たちは口に入れた瞬間剣山が刺さるようで嫌という子もいる。トマトのにゆるにゆるが嫌という子もいて、そういう障害があるとわれ、最近の研究でわかってきた。味覚が私たち以上に感じている子もいる。これは虐待ではないかと言われてきている。そういうことを感じる子たちもいる、味覚に対して敏感。光りに対しても敏感で分かってくると個人的なものもある。生きるために必要なことを拒否することはない。胎内で学んでいる味覚は胎内に出た後に、好き嫌いを作っているのは毒のものを避けるため、苦いものを避けるためと言われている。毒のあるものを口に入れたら危ない。腐っているものも危険なので酸っぱいと思うとむせて吐き出すのは、大人でもそうなるのは名残。自分を守るために好き嫌いがあるとされている。苦いものでもこれは毒ではないと知るの自分信頼

している人がおいしそうに食べるのを何度も見ることで分かってくると言われている。もし、障がいできなかったり胎内で学んできた好き嫌いを直させたいのなら、毎日おいしそうに食べることで美味しいものと知っていくことだと言われている。5つのポイントの中にセミバイキングをして少なくともよそうことをして結果的に好き嫌いがなくなることを数字で出して賞をもらった。印象だとわからない。最近はガイドラインでは規定がされなくなっている。指針の中でも栄養摂取という言い方をしているが今の指針からは暮らしの営みと言われている。昔のなんでも食べるとか、食べないと帰さないというのは科学的な根拠はなくて、かえって好き嫌いをつくってしまうと言われている。健康の維持ができるようにすることが大切。

野菜が嫌いなのに選んでしまい食べられない子がいます。(4歳) おやつを食べる時間が遅くなりがち。おやつに興味を持たせるには、どうしたらいいのでしょうか？

昔、こういうことがあった。せいがの森でとんねるずの木梨がきた。給食の時にこう言った。子どもが食べる量を申告させて食べていると言ったら、不用意に子どもがいっぱいと言ったら木梨がすげえーと言った。そうしたら次の子が超一杯と言って、超超いっぱいと言った。その時にさすがと思ったのが、木梨はその子に「俺と食べる量競争しよう」と言った。「まず、勝負食べる！」その子が食べきれぬ量まで減らして食べきれぬ量で競争をした。私がよく言うのが食べきる、という成功体験を積むことが大事なので多くよそってしまったら、食べきれぬ量まで減らしてあげる。ほらみる食べれないだと、えらい目に合わせることはよくやりがちだが、知らん顔して減らしてもいいと思う。少し前のブログにも書いたがうそをつくといえ目にあうときに、嘘をつかせないために逸話がある。オオカミが来たと言ったり、子どもにワシントンは枝を切っていないと言ったが正直に話したら結果的にポジティブな例を出した方がうそをつかなくなる。いい方の例を出した方がいいと言われている。ほらみるというよりも成功体験をさせたほうがそうなるという研究がある。ネガティブなことを言って直させようとするが食べきったらいいいことがあったと体験させた方がいいとわかっている。片付けもそうだが、出来ないだと嫌味を言うよりも後は本人が成功体験をさせたほうがいい。どうしてもつい子どもに嫌味を言いたくなる。ポジティブな結果になるほうが子どもがよくなると言われているので意識してやった方がいい。先生が食べてあげるとか、先生がもらって、食べきったねとしたほうがいいと思います。

【行事】

子どもに経験させたい「意図された保育内容」について、例えば運動会や発表会などの行事で実践していくには、どのような方法があるのでしょうか？

保育として行事をどう考えるか。子どもに経験させたい意図された保育内容について、例えば運動会・発表会で実践していく方法は私が行事の本を出したので一つずつは参考にしてもらえたらいい。何のために行事をするか。種類によっても違う。行事というと、生活の中の年中行事を思い浮かべる。何で年中行事があるか、昔は日々の生活は大きなことはなかった。毎日単調でつまらない。そこにメリハリをつけるために年中行事があったと言われている。日々の潤いを持たせるためにもう少し頑張ろうと言って、日々を楽しみに過ごしたと言われている。行事はまずそう位置付けること。それがないと行事の中でもあげられていないが遠足も楽しみにする。それを数えながらいつになったら遠足になるだろうと、他の行事もそうするといいい。運動会でも体を動かすことは好きはず、発表も表現をすることは好き。覚えさせるのではなく、競うことも好き。そのためには先生も準備を楽しまないといけない。今週末夕涼み会で準備をしている。ドイツ発表ではないがポートフォリオだけでなく行事の準備も出来る限り保育中にしてしまう。その様子を見て当日をわくわくするため。当日まで隠しているのではイベント会社が準備するのと同じ。職員がするのを横目で見たり、手伝えることは一緒に手伝ってもらおう。卒園アルバムを作るがそれを楽しんだのか、職員を手伝いたいとなって、卒園間近になると保護者も一緒に作っている。準備を楽しんでいるところを見せるとやりたくなる。楽しみをもって準備していくこと。運動会・発表会は私たちの園でも発達を見せる場なので、発達以上のことを仕込んで見せてしまうと親は発達が分からなくなってしまふ。仕込めばやれないことはないがサーカスになってしまう。同時に発達表を見せそれを種目から見てください。と見

せるとそれは普通の保育の中で行わなければならない。言語能力も普通の保育で身に着けないといけない。これをきちんとさせていけば指針にあるように、言語表現では違うから保護者は成長したなと感じる。それを見せる日が行事ということがある。普通の保育を楽しむため、子どもの発達をキチンと伝えていく、内容を示していくというのがある。今度の指針には地域に参加するということも位置付けられる。地域に流れる文化や昨日の話にもあったが、地域の文化を伝承していく。こういう行事もありだと思ふ、地域の行事を子どもたちとやっていく。強制する必要がないのは、好きではない子もいるので工夫する必要がある。文化を伝えていくことも必要なので、行事にはいろいろな形があるので行事を通して何がしたいのかを考えるといい。その日のために仕込んでいては意味がない。日々の積み重ね。準備が大変なこともあるが私の園では高校の文化祭みたいに残ってやるのも楽しかったりする。行事が楽しく、子どもにとって楽しみになるような準備をしてほしい。光明さんは勇気がいっただろうなというのは鼓笛をやめたこと。まず一つは何のために鼓笛を始めたのか。音楽に子どもたちを触れさせるためにリズム感を身に着けさせると思ったら、形だけを残すのではなく、その動機を思い出して今の時代だったらどんな形でできるかを考えるといい。今までやって来たから先生も子どももやっているのなら、思い切らないといけない。保護者は変える時は何か言ってくる。組体操でもそう。子どものために私たちが思っていることできちんと説明していくことが大事。行事も本来何がしたいのかを考えていくといい。行事自体は賛成。ただ、見せるため負担になるようなことは見直した方がいい。

【保護者対応】

園としては見守る保育進めていきたいと思いますが、保護者の意識の中に「見守る」を理解できている方が少ない現状です。「子どもを預けられればどこでも良い」と思っている保護者。しかも早期教育がより効果があると信じ、子どもたちの気持ちを親に伝えようとしてもなかなか真意が伝わりません。(職員の保育のチアら不足もあるとは思いますが) 保護者に「見守る保育」を理解してもらうには、どのような取り組みを「具体的に」行うと良いのか方向性を知りたいです。

私たちが指針に則って告示化されているので、まず指針などの存在を知ってもらわないといけない。指針を保護者にも理解してもらう必要がある。時々伝えていかないといけない。それに沿って保育をしているので補助金をもらっている。指針は国が研究者を集めてどういう保育をしていくかが必要であることが書かれている。私たちがやろうとしているのは指針に則って行っている。きちんと指針を説明する必要がある。早期教育を含めてだが最近の知見で、今の保護者は早期教育が意味あるものだと言われていた。白紙論、赤ちゃんは白紙で生まれいろいろなことを習得していくと言われていた。それを受けてソニーの井深さんが3歳では遅すぎると早期教育を勧めた。今は全く逆のことが分かっている。ニューロンシナプスは生まれた時が一番多い。いわゆる刈りこんでいくことが成熟だとわかって来た。上手にバランスよく減らしていく。バランスよく減らせないのが発達障害と言われていた。ある部分で優れているのが発達障害。その変わり極端に減っている。健常者はそれほど低くないが高いものもそれほど高くない。それに対して発達障害の子はある部分が高いので天才と言われていた。理系の天才はほとんど発達障害と言われていた。上手に減らせない。これは証明できていなくて専門家たちは子どもたちは自発的に動いていることが分かった。胎内の赤ちゃんで分かった。必要なものを削り取るとわかっている。昔のように早期教育をして刺激を与えてしまうと発達障害のような4,5歳が急増していると言われていた。あまり介入しない方がいいと言われていた。4,5歳は気になる子が増えてきている。これは脳のシナプスが整理できない、多動のままで残ってしまうとか、上手に刈り込んでいくのができないのが早期教育の弊害。これは保護者にはまだわからない。これは時代的に最近の研究と違ってきている。そういう人たちを呼んで講演してもらおうとかしかない。その中でTVでそういう特集があるので流した方がいい。Eテレで乳児教育とは何かを流している。幼児教育は遊びを通して行うことと言っている。遊びという言葉がいけないのは大人の思っているものと違う。子どもは遊びそのもの。フレーベルの時代からそう言っている。昔から言われているが時代によって捻じ曲げられてしまっている。遊びは大事だと言われている。TVで「自分の幼稚園では教えてしまう。そういう園に対してはどうしたらいいですか？」と聞いたら汐見先生は「園長や保育士は教えることはよくないことはプロだから知っている。保護者が要求しているからやっている」と答えて

いた。私たちの中では遊びの中でやるのは大事なのは誰でもわかっていると言っていた。保護者にも言っていないといけな、将来にとって何が大事か。もっと最近の問題は人工知能が発達してきている。若い人の 65 パーセントは今ある仕事ではない仕事に就くと言われている。今ある仕事はほとんどなくなってしまう。今ない仕事を就くとしたら考えられる子を育てないといけな。私たちは先を見通して保育していかないといいな。昔、ボーリングのピン直し係りは今はもうない。電話交換手もない。火をつける係もいた。昔あった仕事で今ない仕事、昔なくて今ある仕事。ネイルサロンとか新しい仕事も生まれている。これからどういう時代が来るかわからない。早期教育をして今ある仕事のために教え込んでも意味がなくなる。何かの折にきちんと教えていかないといいな。お便りの中でも連載していこうとしている。父親保育の効果がある。父親保育の考え方もいっぱいあって、お父さんのダイナミックにすることが趣旨だったが、そっちに行きがちだったがそれを戻してうちがやっている保育に戻している。お父さんの発想というより、見守る保育はどんなものを趣旨にしている。その成果が今年あったからあるお父さんが謝辞で見守る保育に触れてくれた。「見守ることは子ども一人一人のことを把握しないとできない、あれもダメこれもダメということの方が簡単。我慢しないと子どもは見守れないことがよくわかった、自分で考えることが育ってきた」と言っていた。保育の中から保護者は感じているよう。保護者にも保育の参加、参画、保護者とともに保育を作り上げていくことが必要だと思う。一番親に理解してもらうのは子どもの姿が変わること。保護者にもこう変わったという実感をしてもらうことが一番の理解。毎日楽しそうに通っている。こんなことができるようになったとか、あるお父さんが広報に書いたらしいが、半分だけお代わりと家でも言ったらしい。子どもの姿から保育を理解してもらえるのが一番。子どもがきちんと成長してくれるのが一番。その方法が昔ながらということはある。子どもを思うことはどうか子どもの成長から感じてもらうことが説明だと思う。環境ではなく子どもの姿を見て欲しい。私が偉そうなことを言っても実際違うではないかとあるかもしれないが、子どもにとって大切だとわかってもらえれば保護者にも伝わると思う。せいがの卒園児が学校の宝ですと校長が言ってくれた。卒園児が今高1までになった。そういうことが実際に現れないといくらいいと言っても自己満足で終わってしまう。子どもたちがよくやってくれていると思う。

本稿は、2017年7月11日に行われた第44回保育環境セミナーの「Q&A」の内容をまとめたものです。

(文責/奥山卓矢)